

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

## ガボン共和国月報(2022年5月)

2022年5月号

在ガボン日本国大使館

### 1. 内政・外交

- 5月6日、アリ・ボンゴ大統領とファキ委員長は会談を実施した。同会談は、AU首脳による定期協議の一環であり、両者にとってアフリカ全体の状況について概括的に議論をする機会となった。両者は人道危機や様々な形式によるテロリズム、一部の国において見られる非憲法的政権交代、数週間後に赤道ギニアのマラボで開催されるAU臨時首脳会合の開催といった多くの課題について議論を行った。(6日付FB)
- 6日、アリ・ボンゴ大統領は、大統領府においてシャーマン米 국무副長官と会談を行った。同会談では、気候変動対策、環境及び生物多様性保護といった共通の関心事項について、意見交換が行われた。同会談において、同大統領及び同米 국무副長官は、両国の多部門にわたる協力の強固さをはじめ、テロや国境を越えた暴力、海賊行為と戦うための方法や手段など、いくつかの論点を取り上げた。これらの悪事は、アフリカの不安定さと多くの悲劇の原因となっている。シャーマン副長官は、地球温暖化防止と自然保護に対する同大統領の取組とリーダーシップを称賛した。このような取組により、ガボンは森林や生物多様性の管理・保全の面で模範となる国となり、国際社会から評価されている。(7日付GMT)
- 9日、アビジャンにおいて開会したCOP15に参加したオスカ・ラポンダ首相は、劣化した土地の回復戦略における貢献や、干ばつによる悪影響を抑制するための効果を通じた、生態系保全に係る固有の問題におけるガボンの取組を想起した。生物多様性にせよ地球温暖化対策にせよ、ガボンは環境保護に関してアフリカをリードする国の一つと考えられており、オスカ・ラポンダ首相は、コンゴ盆地の劣化が気候変動を引き起こし、必然的に人々の日常生活に壊滅的な影響を与え得ることから、コンゴ盆地への支援と取組を改めて表明した。1996年9月6日以降、ガボンは国連砂漠化対処条約の197の締約国の一つである。(11日付GMT)
- 27日、赤道ギニア・マラボで開催された人道問題に関する第15回 AU 臨時首脳会議及びAUドナー会合に参加したオスカ・ラポンダ首相によると、ガボンは「まもなく始動する」アフリカ人道庁(Agence humanitaire africaine (AHAF))の活動に対して20万米ドル(約1億2,220万FCFA以上)を拠出する意向である。(29日付GR)
- 5月23日から30日まで、ガボン・韓国友好議連の主導により、国民議会において両国の外交関係樹立60周年記念行事が開催された。国会両院の Lucie Milebou Aubusson 上院議長及び Faustin Boukoubi 国民議会議長臨席の下、この60年の友好関係を称揚すべく Kim Jung Ja 氏による「ソウルーリーブルビル展」が開幕した。ガボンと韓国が外交関係を樹立したのは1962年10月1日である。国民議会でのこの絵画展オープニング式典は、この重要な日を記念して、両国の素晴らしい絆を強調するものである。ガボンと韓国は、過去10年間で貿易

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

量を大幅に増やした。ガボンから韓国への原油の輸出によって、2010年の229億 FCFA から2018年には3,190億 FCFA に増加した。(25日付GR)

- 31日、アリ・ボンゴ大統領は、大統領府において、実業家からなる大規模な代表団を率いたヴェンカイア・ナイドゥ・インド副大統領と会談した。本訪問は、インド産業連盟の経済視察ミッションの一環として行われたもので、初めての試みである。本会談では、両者は両国の経済・商業協力の強化について、また国際情勢や安全保障問題について意見交換を行った。インド代表団による本訪問は、ガボンの経済にとってまさに機会である。ヴェンカイア・ナイドゥ副大統領には、本訪問を利用してガボンの実業家とのビジネス関係の調査・構築を行うためインド産業連盟のメンバーが同行した。同副大統領は、ガボンの経済モデルに関心を有しており、ンコク及びイコロ経済特区に約50のインドの工場が設立され様々な分野で活動を行っていることを歓迎し、両国間のパートナーシップのさらなる発展に対するインド政府の意欲を表明した。このように、アリ・ボンゴ大統領とヴェンカイア・ナイドゥ副大統領は、特に研修、高等教育・研究、保健、製薬産業、鉱業、太陽エネルギー、新技術、輸送、農産物の分野で協力の道を探る可能性について議論した。(6月1日付GMT)

## 2. 経済・開発協力

- 6日、柳昌秀駐ガボン韓国大使は、女性や子供を対象とした医薬品一式を供与するため、グラス母子保健センターを訪問した。同大使は、「リーブルビル市民の生活改善のために引き続き同センターが前進することを望む。同供与品は、女性及び子供の生活環境を改善することが目的である。子供は人類及びガボンの未来なので、彼らの成長のために適切な環境を確保することは重要である。そしてこれは全ての人の利益になる。我々は、本供与を通じて女性や子供のための医療能力の強化に取り組みたい。」と述べた。本年は韓国とガボンの外交関係樹立60周年である。同大使によると、ガボン元韓国留学生の集まりであるKOICAクラブもその関係強化に貢献した。(11日付UN)
- ドイツのポータルサイト「Statista」のレポートによると、2021年のアフリカの原油埋蔵量は1,253億バレルにのぼるといふ。20億バレルのガボンは15億バレルのチャドより上の9位であるが、埋蔵量484億バレルでアフリカの王座に納まるリビアには遠く及ばない。一方で、ガボンの原油埋蔵量は、新たな油田の発見により増加している。同サイトによると、2018年の埋蔵量が2億バレルであったのに対し、2021年の埋蔵量は20億バレルであった。(11日付GR)
- IMFミッションによる2022年の経済成長率予想によると、2021年に1.5%に停滞したガボンの経済成長率は、2022年には加速して2.8%に達する見込みである。これは、5月12日から20日までリーブルビルで行われた、拡大信用供与措置(EFF)の第1回及び第2回複合レビューに基づくIMFミッション終了時の結論の1つである。(22日付GR)

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

出典: UN(ユニオン紙)、GMT(ガボンメディアタイム)、GA(ガボンアクチュ)、GR(ガボンレビュー)、FB(ガボン大統領府公式フェイスブック)、HP(ガボン大統領府公式ホームページ)、LL(ラ・リーブルビル)、RFI(Radio française internationale)

(了)